

地域の未来を 明るくするために



活動歴2年
うえだ まこと
上田 命さん

— 保護司を目指したきっかけは

普段、会社を経営しながら、小学校のPTAや町会など、さまざまな地域活動を行っています。PTAの活動をしていた時に、先輩の保護司の方から誘われたことが興味を持ったきっかけでした。昔から父に地域貢献の大切さについて教えられており、私自身もその言葉を胸にさまざまな活動を行ってきました。もっと地域の役に立てることがあるのではないかという思いから保護司になることを決めました。家族や地域の方々も保護司の活動を見守ってくれています。



— 実際に活動してみても

担当する対象者は、保護観察官が調整します。基本的には複数人で一人の対象者を担当することが多く、先輩保護司と一緒に、区民活動センターや区役所など区立の施設を借りて、面談を行っています。

対象者と会話している先輩保護司の姿を隣で見ながら、対象者とのコミュニケーションの取り方や保護司としての支え方を日々勉強しています。対象者に寄り添いつつ、時には厳しいこともしっかりと強く伝える先輩保護司の姿は、発見や学びが多く尊敬しています。

面談では、対象者の目線に立ってその人の考え方を整理しながら向き合うことを大切にしています。罪を犯してしまった原因や、更生できるきっかけを、対象者との面談の中でひも解いていけるように努めています。



— お仕事との両立は大変ですか

面談日は、対象者と予定を合わせながら決めていくので、ある程度融通が利くためうまく両立ができていると思います。保護司会で行っている研修会や定例会は土曜日に行うことが多く、用事があれば休むこともできるので縛られることなく参加できています。

優しい先輩ばかりで、対象者とのコミュニケーションの仕方や経験談を聞くことで刺激を受け、より良い活動につながっていると思います。



▲研修会の様子

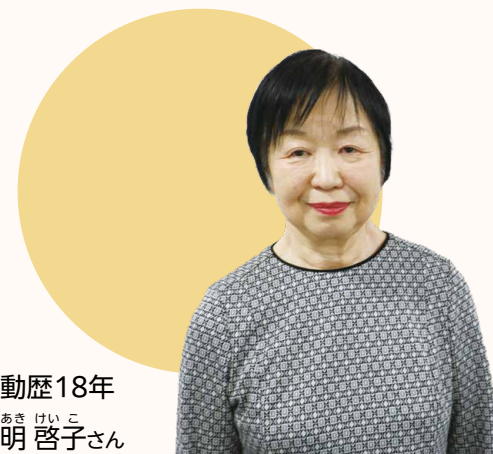
— これからの目標は

対象者のケアに加え、犯罪や非行をなくしていくための広報活動にも力を入れていきたいと考えています。保護司の活動はまだまだ知られておらず、地域の理解や協力を得るためには伝えていくことが大切です。これまでの地域活動を生かし、講演や本の読み聞かせなどを通して、子どもから大人まで、多くの方に「社会を明るくする運動」を広げていきたいです。



▲広報啓発活動の様子。「社会を明るくする運動」の詳細は6ページをご覧ください

支援の手を 差し伸べ続けたい



活動歴18年
もとあき けいこ
本明 啓子さん

— 保護司を目指したきっかけは

親しい友人から誘われたことがきっかけです。保護司のことはあまり深く知りませんでしたが、心理カウンセラーとして仕事をしており、自身のカウンセリング経験が役立つかもしれないという思いから、保護司を始めました。

カウンセリングは、悩みを抱えた人を受け入れて相談に乗ることが基本です。しかし保護観察は、こちらから歩み寄って話を聞きます。カウンセリング以上のスキルが求められることもありますが、悩みを抱えた方々と向き合うことは自分にとって貴重な経験です。

— 実際に活動してみても

活動していて感じるのは、社会復帰は簡単ではないということです。罪を犯したという過去により、仕事や人間関係などの壁にぶつかることが多く、本人の努力だけではどうにもならないことがあります。だからこそ、「一緒に頑張ろう」と寄り添うことが大切です。

ある対象者の方は、何度も運転免許の試験に落ちながらも、諦めずに挑戦を続けていました。落ち込む相手に対し「大丈夫、あなたならきっとできるよ」と声を掛けると、前向きな気持ちを見せてくれました。ついに免許を取得し、就職することができた時は、本当にうれしかったですね。「夢を叶えたい」という気持ちを持ち続けてくれたこと、そしてその背中を少しでも押すことができたことが、私にとっても大きな励みになりました。

私たちと一緒に
地域の未来を
支えてみませんか。



保護司に興味のある方はお気軽に問合せを

保護司の高齢化が進み、なり手不足が課題です。保護司や地域貢献に少しでも興味がある方は気軽に問い合わせを。

問合せ先

東京保護観察所 民間活動支援専門官室
☎(3597)0123
(平日午前8時30分～午後5時15分)

▼法務省HP

